

2018年度 取締役会評価基準および評価結果

2019.04.01

新光商事

取締役会

1. 基本的な考え

当社は、コーポレートガバナンスコードの原則を重要視し、当社の業界並びに環境に即した取締役会の機能を活性化するために努力するものとする。

取締役会は、各取締役及び社外取締役、監査役、社外監査役による自己評価などを最低年1回実施し、取締役会全体の実効性について分析・評価を行うものとする。また、その結果の概要をホームページ等で開示することとする。

2. 取締役評価基準

- ・取締役会が定期的若しくは不定期で必要に応じて開催されているかどうか。
- ・取締役会の議案が成長性と安全性をバランスよく捕らえているかどうか。
- ・取締役会で各役員の発言が活発な意見交換となっているかどうか。
- ・取締役会がその実効性に関する分析・評価を行っているかどうか。
- ・取締役会が自由闊達で建設的な議論・意見交換を尊ぶ気風の醸成がされているかどうか。
- ・取締役会の決定事項がどのような結果になったのかが報告され評価が行われたかどうか。
- ・取締役会が過度の保守主義で適切なリスクテイクをしない土壌を作り上げていないかどうか。
また逆に成長性へのチャレンジとして安易にリスクテイクしすぎていないかどうか。

3. 2018年度取締役会改善項目

- ・取締役会資料作成の1日前倒しによる、事前検討時間の確保。(2017年度改善後継続)
- ・取締役会資料改善による効率化の更なる促進。
- ・企業価値向上を目指しての取締役会経営討議時間の拡大。

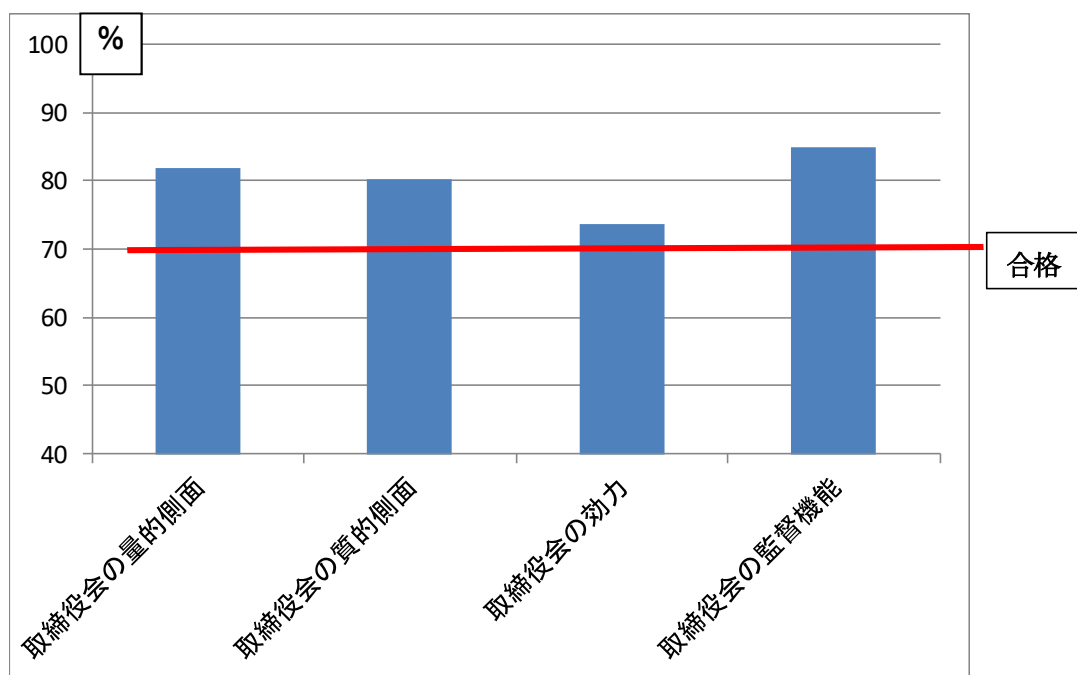
2018年度実施 経営討議テーマ	
働き方改革	中期計画／成長戦略
取締役会運営	IR活動／株主対話
新規ビジネス	人材確保
取締役と執行役（指名報酬委員会）	賠償リスク
海外ビジネス	在庫リスク
海外EMS工場について	M&A戦略について

4. 社外取締役会の充実

- ・社外取締役を中心に社外監査役を含む、社外取締役会を開催継続。(2回/年)
- ・社外役員によるコーポレートガバナンスの促進。

5. 評価結果

取締役評価基準に則して、「取締役会の量的側面」、「取締役会の質的側面」、「取締役会の効力」、「取締役会の監督機能」の観点で取締役会評価を実施した。



取締役会の実効性としては、一定水準を充足しており十分に機能していることが認められました。しかしながら、詳細項目によっては、改善の余地があると考えております。従いまして、更なる実効性を高めるために改善施策を適宜立案し実行していきます。

5. 取締役会出席状況

2018年度取締役会開催回数：17回

(定例取締役会：12回、決算取締役会：4回、株主総会取締役会：1回)

役職	氏名	出席回数	欠席回数	出席率	欠席事由
取締役会長	北井 暁夫	17回	0回	100%	
取締役社長	小川 達哉	17回	0回	100%	
常務取締役	稲葉 淳一	17回	0回	100%	
取締役	正木 輝	17回	0回	100%	
取締役	弓削 文孝	17回	0回	100%	
取締役	細野 克宏	17回	0回	100%	
取締役	宮澤 清高	17回	0回	100%	
取締役	大浦 俊夫	17回	0回	100%	
取締役	吉池 達悦	16回	1回	94%	2月忌引
常勤監査役	佐藤 俊彦	17回	0回	100%	
監査役	坂巻 國男	16回	1回	94%	5月病欠
監査役	矢内 銀次郎	17回	0回	100%	

以上